

令和3年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
80	川崎市立白幡台小学校	

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<p>「心身ともにたくましく、自ら学ぶ子どもの育成」</p> <p>大切な自分、大切な人に気づく児童を育てる</p> <p>(知) しっかり学ぶ……確かな学力を培う教育の推進                      (徳) ゆったりかまえる……思いやりの心を育み、豊かな人間性の育成の推進                      (体) たっぷりうごく……健康・安全教育の推進</p>	<p>しっかり学ぶ</p> <p>(1)楽しく学べる学校</p> <p>(2)きれいな学校</p> <p>ゆったりかまえる・たっぷりうごく</p> <p>(3)元気で明るい学校</p> <p>(4)保護者や地域と力を合わせる学校</p> <p>以上に向けて、次のスタンスで臨む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが育つ</li> <li>2. 教職員が育つ</li> <li>3. 保護者も育つ</li> </ol>	<p>(1)基礎基本の定着を図る。</p> <p>(2)学習環境づくり</p> <p>(3)児童支援の充実・安全安心の確保</p> <p>(4)PTA・地域との協力</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	<p>しっかり学ぶ (1)楽しく学べる学校</p> <p>(1) ★学力を伸ばす(児童) ○新学習指導要領に沿った白幡台小学校の児童にあったカリキュラム(白幡台プラン)の実践・検証・再編成を行う。</p> <p>○学年、低中高学年部会、校内での協力体制や授業形態の工夫、モジュール学習時間の充実に図る。</p> <p>○コーディネーターを中心にして、取り出し学習、入り込み学習などを計画的に行い、わかる学習をさらに目指す。</p>	<p>○白幡台プランの実践にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて通常通りに進めることが今年度も困難を極めた。そのような状況下であっても、GIGA端末を活用して、オンラインによる授業配信等を実践し、その道筋を模索してきた。</p> <p>○本校児童の課題を継続して把握し、学習面やそれを支える生活面での基礎基本の定着を図ることができるように授業時数の確保に向けて、モジュールタイムの活用を行った。</p> <p>具体的な活動内容を検討し、とくに1～3学年は、“ことばの時間”として読める子、書ける子を育てることを中・長期目標としている。</p> <p>○コーディネーターや教務主任を中心に行ったが、人的にも質的にも限界があるのは明らかである。成果として学力に課題がある児童の登校を渋る傾向は多少改善がみられてきた。</p> <p>○授業形態の工夫としては、1学級20人台の小規模校の利点を生かして、学年合同で行う授業を行っている。また、3～6年生では学年内で交換授業を行い、複数の目で子供の成長を確かめ合う学習活動に努めた。</p> <p>○教員の授業力アップを目指し、内部講師によるミニ研修を継続して行っている。</p>	<p>○継続して今年度の実践に沿った学校スタンダードや白幡台プランの見直しを図る。急激な変化にも対応できるよう、今後も即時性を持った見直しを行い、実態に即して活用していく。</p> <p>○小学校6年間の学びとして確かな学力が定着していくことができるよう継続して実施していく。</p> <p>○取り出し、入り込みスタイルの長所を生かし、さらにより良い方法を模索していく。</p> <p>○専科教員も含め今後も、たくさんの目で一人一人の学びのよさをしっかりと認め、本人の自信とつなげていきたい。</p> <p>○次年度より通級指導教室のエリア拠点校になる利点を生かし、より一層きめ細やかな対応を目指していく。</p>

2	(2)きれいな学校	<p>★学習環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化した校舎内外の施設を見直し、改善計画を立て校内の環境整備を続ける。</li> <li>○各教室や教材室、廊下、玄関のいたるところを整理整頓し、安全面にも気を配る。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症に対応した消毒、換気など感染対策に配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教室や校内各所(主に空き教室)について、男女別の児童更衣室、外国語専科教室、取り出し学習室、教育相談室などに転用し、学習環境を整えてきた。</li> <li>○学校の防災計画の点検を行い、感染症予防対策も考慮に入れた避難訓練を工夫して行った。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症に関する川崎市のガイドラインをもとに本校のガイドライン(保護者用、教職員用)を作成、対応してきた。発出されるガイドラインに沿って適宜改訂を行い、その都度保護者にも周知を図ってきた。打ち合わせ等で声をかけ合い、感染症予防対策を推進してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和4年度から校舎再生整備事業の計画が本格的に実施されるので、それに伴って校舎内外の環境整備について継続して進めていく。</li> <li>○避難訓練のねらい(地震のみ、地震後火災発生、火災発生等)をはっきりさせた訓練を継続していく。</li> <li>○令和4年度に向けて新しいガイドラインを作成していく。また、令和3年度のガイドラインについては、新1年生の保護者が安心するように入学説明会で配付した。</li> </ul>
3	<p>ゆったりかまえる・たっぶりうごく (3)元気で明るい学校</p>	<p>★児童支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内の支援体制づくりを継続発展する。</li> <li>○保護者支援も含め、児童が安心して過ごせる学級体制づくりをおこなう。</li> <li>○児童支援の情報交換を密に行い、学校全体で支えていく。</li> </ul> <p>★教職員の働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の働き方改革を継続して実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童支援コーディネーターのきめ細やかな体制作りで、校内の支援体制が構築されている。特に支援が必要な児童に対しては、管理職をはじめ・児童支援コーディネーター・学年・養護教諭も参加してのケース会議を行った。多方面からの情報交換や今後の児童支援について確認し合い、学校全体の支援体制を行ってきた。</li> <li>○保護者との連絡を密に取り、家庭での困り感を把握してきた。学校として考える児童の成長につながるための方策を保護者に提示してきた。必要に応じて外部機関とつなげたり、校内支援をさらに充実させたりしてきた。</li> <li>○キャリア在り方生き方教育については、前年度作成した全体計画を意識した取組を進めてきた。</li> <li>○職員会議案件は、分掌担当が事前に教務会に諮る等の工夫により精選・効率化を図った。</li> <li>○教員用PCの連絡機能を有効活用し、普段からの伝達に使用してきた。</li> <li>○教職員の休憩時間確保のため、例外はあるが休憩時間には会議を入れないことが定着してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も児童支援コーディネーターの仕事がスムーズに運ぶように体制を点検し、業務に集中して取り組めるように、全教職員で支えていく。</li> <li>○キャリア在り方・生き方教育をもとに全職員共通理解の下、学校全体の課題として児童の自己肯定感を高めていきたい。また、学年に応じて人間としての在り方の軸を作っていく。</li> <li>○温かい気持ちをもってお互いの意識改革を図っていくことを継続していく。</li> <li>○今後も会議の精選を図る。C4thで連絡・確認を徹底し参集型の会議を減らす方法を模索していく。一方、学校全体に関わる大事な案件は事前に教務会で案件を吟味する。</li> </ul>

4		<p>★授業力をつける(教師) ○研修の充実</p>	<p>○今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により校外での授業研究や各研究会主催の研修への参加が難しかった。 しかし校内では、本校教員が教科常任委員授業を公開し、研修機会を保障することができた。 また、継続してコーチング研修を行うこともでき、教職員自身のスキルアップ役立てた。</p> <p>○学校全体の取組としては、算数の校内研究を継続して行ってきた。今年度は学年で研究授業を公開し、外部講師を招いての協議、指導講評を実施した。今まで川崎市の教員が行ってきたスタイルの授業公開に基づいた子供の姿からの研究・研修を深めることができた。</p>	<p>○ガイドラインを遵守し、できる限りの研修参加を保障していく。</p> <p>○普段から教科常任委員の授業に触れる機会の保障を行い、お互いのスキルアップを目指していく。</p> <p>○コーチング研修は、アンガーマネジメントをはじめとする内容の充実が図れた。価値のある研修として引き続き授業力はもちろん、社会人としてのコミュニケーション能力の向上を図っていく研修としていきたい。</p> <p>○学校運営を円滑に進めるためにもリーダー、ミドルリーダーと経験年数に応じた研修にも取り組めるようにする。</p>
5	<p>ゆったりかまえる・たっぷりうごく</p>	<p>★体力づくり・食育推進</p> <p>★新型コロナウイルス感染症に関連して</p>	<p>○コロナ禍が続く中、体育専科教諭を中心に自らの健康に関心をもつ児童、楽しく運動する児童、穏やかに認め合う気持ちをもつ児童の育成を図ってきた。 安全面に配慮しての活動から子供たちは安心して体力向上を目指し楽しく学習を進めることができていた。成果が5年生の全国体力・運動能力調査の平均を上回る結果として現れた。 ○養護教諭や栄養士が担任と連携して授業を進めることができた。GIGA端末を活用した学習も実施することができた。さらに養護教諭や体育専科教諭による、安全教育・危機管理意識の向上を図る職員研修を実施し、子供の安全な生活を担保した。 ○新型コロナウイルス感染症に関する情報共有を図る際には、児童や家庭がいわれなき差別や偏見により傷ついたり不安に思ったりすることが無いように尽力した。</p>	<p>○来年度も体育専科教諭、養護教諭、栄養教諭が中心となってコロナ禍における健康教育、体力の増進などに努めていく。</p> <p>○児童の安全面には今まで以上に気を配り、養護教諭の動きや、それぞれの教職員の事故発生時の対応の仕方などを全職員で研修会を実施し、徹底していく。</p>

6	(4) 保護者や地域と力を合わせる学校	<p>★学校評価・学校説明会・学校報告会</p> <p>★PTA・地域の協力</p>	<p>○学校評価については、例年通りの児童・保護者・教職員アンケートを行い、考察を行った。おおむね学校の在り方に好意的な評価をいただいているといえる。同じ内容のアンケートを続けることで見えてくる経年変化の実績を大切にしていきたい。</p> <p>○ダディサポーター、町会、自治会の方々の多大なる協力をいただき、青空映画教室を開催することができた。</p> <p>○学校教育推進会議は開催時期が蔓延防止措置期間に重なり、紙面開催のみとなってしまった。</p> <p>○創立50周年記念式典は、予防対策をできる限り万全に期し、PTA・地域の方々の協力の下、挙行することができた。ただ、式典に参加していただく人数を減らさなければならぬことが一番悔やまれるところである。</p>	<p>○PTA活動や学校行事の実施については、来年度以降も直前まで行い方や実施の判断が問われると予想されるので、PTAとより一層連携して広報にも努めていく。</p> <p>○継続して学校教育推進会議やPTA、ダディサポーター、地域との連携をコロナ禍の中で図っていく方法も、協力して共に模索していく。</p> <p>○地域の寺子屋も感染予防の観点から実施回数を制限せざるを得ない状況が続いてしまったが、今までの実績を切らさないように、つながりを大切にしていく。</p> <p>○創立50周年を迎えるにあたってたくさんのご支援をいただいた方々とのご縁を今後とも大事に継続していけるよう、学校からの発信を行う。</p>
---	---------------------	--	---	--

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA活動で校内にいますと、先生の方から子供の様子を聞かせてくださるなど、熱心に一人一人を見守ってくださっている先生が多いと実感しています。</li> <li>・GIGA端末の活用については、いざ家庭学習になった場合を想定しての家庭での取組が(学習内容を含め)がもう少し進むといいなと思います。</li> <li>・クラスが一つなので男女ともにとっても仲が良いように感じます。帰宅後も色々なお友達と遊ぶ約束をしていることが多いです。</li> <li>・縦割りの交流があり、他学年の子とも普段から関わり合える機会があるのはとてもありがたいです。親の目の届かないところでも子供同士で動けるということは、縦割りで交流があるからこそなのではと思いました。</li> <li>・学年の勉強に追いついていなくても、できないことより前よりできるようになったことなど頑張った結果をしっかりと見ていてくれると感じます。</li> <li>・これから1クラスの学年が増えてくる現状で、クラス替えが無いのが気になります。先生を増やさないといけないなど実際は難しいかもしれませんが新鮮味などが無くてかわいそうに思います。</li> <li>・子供たちの委員会活動についてもっと周知してもらえると、保護者も頼もしく思えたり、親子で会話ができたりするのかなと思います。PTAに参加していなければどんな委員会があるのかも知らなかったし、運営委員会があんなに頑張っているなんて考えて活動していたのも知りませんでした。</li> </ul>	<p>○昨年度からの児童支援、学習支援においては、校内支援体制の強化と組織の再編に成果があったものは継続してきた。保護者や児童それぞれのニーズに合わせて、手立てを示してきた。一学級の児童数が少ない利点があったが、昨年度から単級が増え、単級の学年では級外職員も入って複数の目で児童を支援していくことが継続課題として重要になっている。次年度開設の通級指導教室エリア拠点校としての強みを確認し、特に個別に支援が必要な児童には具体的にきめ細やかな指導を展開していく。</p> <p>○小規模校ならではの長所を再確認し、たてわり活動やキャリア在り方生き方教育をより一層充実発展させていく。特に高学年児童の自己肯定感の向上につなげていきたい。コロナ禍において一番有効な方法をその都度探っていく必要がある。</p> <p>○いじめや虐待については、常日頃から教員がアクティブソナーを発信し、いじめの火種を残さない指導を心がけていく。同時に関係諸機関との連携を図り、今後も虐待の疑い等に迅速に対応していく。</p> <p>○教務会、学年主任会を必要に応じて開き、校内での体制づくりへの取組を担っていき、情報の確認を徹底する。</p>







